

ミクロ経済学 第8回 解答解説

A1. ○ (👉VテキストP325)
A2. × (👉VテキストP353～354) 点cとdを通る各個人の無差別曲線を描き、点cからdに配分を変更した場合、個人Aの効用は増えるが、個人Bの効用は減ってしまうから、これはパレート改善ではない。 逆に点dからcに配分を変えると、個人Aの効用は減り、個人Bの効用は増える。これもパレート改善ではない。
A3. × (👉VテキストP353～354) Q2の点cからdへの移行はパレート改善ではない。
A4. ○ (👉VテキストP355)
A5. ○ (👉VテキストP357)
A6. × (👉VテキストP360,363) 競争均衡はパレート最適である(厚生経済学の第一命題)が、パレートの基準は資源配分に関するものであり、公平かどうかの基準ではない(公平かどうかは不明)。
A7. × (👉VテキストP365) 競争均衡は与えられた初期保有点のコア配分に限定されるので、競争均衡として実現するには適切な所得再分配(初期保有点の移動)が必要である(厚生経済学の第二命題)。